

第4回ワーキンググループ会議

【活動WG】 議事要旨

日時：平成28年10月11日（火） 13:30～15:30

場所：本庁舎9階 会議室

出席：委員3名、事務局4名、北大3名

議題 「余暇環境」、「フレキシビリティ」について

■ 前回の振返りと今後の予定について

- ・ 「苫小牧版アイデア集」は、前回WGで出された意見をもとに事務局が活動事業のアイデアとしてまとめたものである。

キーワード「地域活動」に関するアイデア

1 とつげき新聞部

- ・ 展示には目的やテーマが必要という意見を参考にして、自分のまちをテーマに壁新聞を作成して発信していくアイデアがある。

2 腕利きサポート部隊

- ・ プロのデザイナーの協力を得てチラシなどを作成すると質の高いものができるという意見を参考に、専門家の指揮のもと市民ボランティア集団を作るアイデアである。

3 とまこまいキッズ基金

- ・ 学校によって高価な楽器などを揃えることができないという意見を参考に、未来の文化芸術活動を発信していく子供たちを支援する基金を作るアイデアである。

キーワード「共用空間」に関するアイデア

1 おもてなしフェスタ

- ・ 市内でバラバラに行われている既存の活動を連携させるべきとの意見を参考に、それぞれの活動をコラボレーションし、市民が集まる機会を創出していくアイデアである。

2 ソロデビューへの道

- ・ プロやセミプロ、アマチュアといった文化活動のレベルを意識した活動事業を行っていくべきとの意見を参考に、例えばアマチュアでも施設の利用頻度に応じて個展の機会を提供するといったような、施設利用とその特典を段階的に設けていくことアイデアである。

3. いきいきディレクターズ

- ・ 共用空間のマネジメントを市民が自立的に行うことで、居心地のよい雰囲気や親しみ

やすい空間づくりを行っていくアイデアである。

検討委員会の報告

- ・ 検討委員会では、3つのWGにおける苫小牧版アイデア集を発表し、WGの区別を越えた活動事業の連携や統合といった横断的な検討を行った。
- ・ 他WGのアイデア集を見ると、各WGで出されたアイデアを組み合わせると一つのアイデアにするというような活動事業の連携に可能性を感じた。

■ キーワード：余暇環境

施設の外で行われる野外イベント「アリオス・パークフェス」

- ・ 休日は子供と過ごす時間を一番大事にしているが、どこに行ってもお金がかかることがネックである。毎週でなくとも無料で子供と自由に遊べるようなスペースが開放されていれば施設への来訪もしやすい。また、そこに囲碁や将棋などの物品が用意されていると高齢者にとっても気軽な来訪がしやすい場所になるのではないかと。
→コミュニティセンターでは既に囲碁などを貸し出しており、それを新しいホールでやる必要があるのだろうか。
- ・ 事例で取りあげているアリオス・パークフェスは、施設前面のスペースにショッピングカーを招いてイベントを行っており、どうしても屋内と考えてしまいがちな活動を外部空間に広げてみてもいいのではないかと意図で記載したものである。

施設運営に対応する柔軟なサービス「年中無休 24 時間体制」

- ・ 24時間開放している必要はないが、市民ホールが夜遅くまで開館していると退社後のサラリーマンにとって便利である。
- ・ 音楽鑑賞をしたくても、仕事が終わってからではなかなか行けない。遅い時間に開催していれば需要はあるように思う。
- ・ 24時間体制でポイントとなることは、実践するには熱意と覚悟が必要ということである。例えば、ガラの悪い中学生に対して施設の使い方を注意するなど、しっかり叱る熱意と覚悟を持って運営にのぞむといったことである。このように、24時間運営を苫小牧で実施するとなった際、実際にやってくれる熱意と覚悟を持ち合わせた人材がいるのか十分に検討する必要がある。
- ・ 24時間での施設開放は、自分の出身大学でも行われていたが、大学生ボランティアやアルバイトが実施していた。苫小牧でも大学生ボランティアやアルバイトがホールの運営に関わることが出来れば、サラリーマンなどのニーズにも対応できるとともに、若い世代がホールに通うことにもつながるのではないかと。
- ・ 事例で取りあげた楽田ふれあいセンターは、若い世代のバンドなどによる夜の利用が多いそうである。自分たちの世代のニーズは自分たちで賄っている点でも頼もしく、

参考にできるのではないか。

- ・ 24時間開放は、ニーズや運営を考えても現実的にはあり得ないように思う。さらに自由に使っていていいというのはトラブルのもとになることもあるので慎重に考えるべきである。

舞台美術のプロが日曜大工やワークショップをサポートする体制「木工作业室の一般開放」

- ・ 何でもできる多目的空間は、フレキシビリティを追求しすぎるあまり、利用者としてはかえって使いにくい無目的空間になる懸念がある。事例で取りあげている可児市文化創造センターでは、木工作业室という専門的諸室を設けることで、利用者層やその活動のバリエーションを増やすことに成功している。苫小牧でも専門の人を置くことや資格取得のニーズがあるのであれば、参考にできるのではないか。
- ・ 苫小牧市内に現在あるサークル活動は、市民が当時の公民館にプロを招いて教えを請い、技術を身に着けることから始まったものである。今やサークルは数多くなり飽和状態ともいえる状況にあるため、その中で一体何が本当の市民の余暇活動といえるのか検討すべき時期に来ているのではないか。

■ キーワード：フレキシビリティ

様々の活動に利用される間仕切壁のないスペースや移動可能床「ワイワイサークル・ワイワイ畳」

- ・ 冬に子供が遊ぶとなると何人かで集まってDS等のゲームをすることが多い。しかし、子供が集まってゲームをできるような大きさの屋内空間があまりない。そういった場所が市民ホールにあると良いのではないか。
- ・ ぎふメディアコスモスを事例として取り上げたポイントは、テーマをもったいくつかの共用空間を用意していることにある。例えば、「国際交流・多文化共生」をテーマにした「ワイワイサークル」という空間でイベントを行っている隣に、誰もが使える「ワイワイ畳」が用意されていて自由な滞在が生まれている。子供や社会人など世代毎でテーマを設けることによって、よりフレキシブルな滞在の仕方が生まれて来るのではないか。

地域の中での相互補完・役割分担を考慮した柔軟性の高いホールでの特色あるイベント「マルチホール(茅野市民館)」

- ・ 普段は子供たちが遊べるように開放していて、休日はコンサートのための空間になるというホールの事例を見たことがあり参考になると思った。
- ・ ホールが複合施設になる話を友達にすると、複合施設になるとホールの質が落ちてしまうとの懸念の声が多く挙がったため、何の機能を複合させるべきかしっかりと検討する必要があると感じた。その上で、複合することで新たに生み出される価値を市民

に伝えられるようなイベントがあるとよいのではないか。

- ・ 事例で取り上げたマルチホールでは、クラブイベントやヒップホップ、バスケットボール等のスポーツ、展示会などのイベントが行われ、多種多様な使い方を可能にしている。これまで3回行われたWGでは、活動のアイデアとして、会議や料理など必要面積の比較的小さいものが多く出ている印象がある。今後は事例を参考に、逆に広いスペースではどのような活動ができるのかについても検討し、幅広い活動を視野に入れていく必要がある。
- ・ 学校祭の行われる秋頃になると、公園でダンスの練習をしている学生をよく見かける。この時期は屋外で練習するには寒いので、ホールを開放してあげるとよいのではないか。
- ・ 文化会館やアイビープラザのようなマルチ空間は音楽関係者には評判が悪い。可動式椅子を収納すれば何でもできる空間になるということになってはいるが、反響板がなかったり音が上に抜けてしまったりと、結局多目的どころか音楽会1つ満足にできない空間になる恐れもある。
- ・ 茅野市民館では、何にでも使えるマルチホールをメインホールに設定し、コンサート用ホールをサブホールと設定している。一般的なホールとは逆の発想ではあるが、決して音楽家をないがしろにしているわけではない。また、敷地周辺には既に音楽をメインにしたホールが点在していたことも判断の根拠となっている。

■ 議論の進め方の提案

- ・ まずは、議論する事例を3つほど絞り、それぞれについて市民の実現可能性やニーズを議論していきたい。そして、市内で既に活動している人や団体を紹介し合えるとよいのではないか。

■ 24時間体制について

実現可能性

- ・ 24時間体制の実現には、実際に運営をする体制がないといけませんが、自治体でも指定管理でも難しいと思われる。地元で熱意ある人がいるかどうかは鍵となるだろう。
- ・ 本当に市民に24時間開放しているニーズがあるようには思えない。どうしても遅くに開けてほしいというサークルがいるときに、臨機応変に対応する方法が適切であろう。
- ・ 事例で取りあげた楽田ふれあいセンターは、24時間体制といっても、実は毎日夜中まで開けているわけではない。市民の希望がある日だけ対応しているということである。また、その夜中の開放については実際のところ赤字となっているようである。

ニーズ

- ・ 楽田ふれあいセンターが夜中に開館している日の主なニーズは何か。

→この施設は地域の公民館なので、サークルや家族のプライベートな飲み会にも利用されているようだ。また、若者のバンド練習も主なニーズである。

- ・ 退社後に市民ホールを利用するとしたら何時くらいまで利用したいと思うか。
→日によっても違うが、およそ23時に使い終わることが多いと思われる。
- ・ 教えている高校生の中には、学校での練習後20時過ぎに帰宅してから更に練習している人もいる。その場合夜遅くなるので、近所迷惑にならないよう、管楽器の場合はミュートをつけて音を抑えて練習しているようである。そのため、ホールが23時ごろまで使えることになれば、利用したい人は多くはないまでもいるはずである。
- ・ 学生のころはよく部活で合宿を行い練習したものである。しかし、夜遅くまで音を出してよい場所が少なく、合宿場所を見つけることに苦労した記憶がある。このため、ホールが遅くまで開放されていれば、たとえ宿泊は別の場所にしたにしても、合宿の練習場所として大いに使えると思う。
- ・ 学校単位での合宿というよりも、ホールが合宿を企画して、期間限定で開放する方法もあるのではないか。
- ・ 苫小牧市内には大勢で入れる広いスペースと宿泊できる場所、遅くまで音を出している場所がないので、現在音楽の部活での合宿は校舎以外では行われていない。
- ・ 会社員の夫は、退社後に寄れるよう図書館が遅くまで開館してほしいと言っていた。現在の図書館は以前よりは遅くまで開館しているが20時までで不便である。
- ・ 本は様々な活動や空間を掛け合わせる事が可能なツールなので重宝できる。

まとめ

- ・ 24時間開放は、サークルの合宿など期間限定であればニーズはあるようである。常時では、会社員の退社後の利用を想定し、23時くらいまで開かれていれば便利であろう。その際、広いスペースと楽器などの備品が準備されていることが必要になる。

■ 野外空間について

ニーズ

- ・ 市内の緑ヶ丘展望台には芝生の空間があり、イベントが特にない日であってもたくさんの方が利用している。自宅にはない空間なので人気があるのではないか。一方、芝生を敷くと維持管理が大変になる懸念もある。
- ・ 散歩ができるような広い野外空間があればよい運動になり重宝されるだろう。
- ・ 緑ヶ丘公園で行われている野外イベントとしては、8月最後の土曜日に緑ヶ丘公園祭がある。また、金管楽器のアンサンブルで屋外演奏会を行っている。
- ・ 芝生空間にテントを張って利用する動きも最近は見られるので活動の幅は広い。
- ・ 親水空間については、苫小牧は札幌に比べ気温が低く夏日になることも少ないので、ニーズは少ないように思う。事実、これまでに整備したところもあまり成功している

ように思えない。

- ・ 野外ステージを用意してそこでイベントを行い、芝生から眺められるようになっていると立ち寄る人も多いのではないか。
- ・ 拓勇公園、キラキラ公園、北星公園には水辺で遊べる空間が整備されている。このように市内には既に水辺空間は整備されている印象があるので、今回の施設に作る必要は特にないように思う。
- ・ 上野公園では大道芸人による大きなイベントが行われており、たくさんの観客が集まっていた。苫小牧にも大道芸人がいるので同じようなイベントができるのではないか。集まれるだけの広い空間があり、人が集まりやすいようなイベントが行われていれば、市民は訪れると思われる。
- ・ 人の集まる場所に物品販売ができるようになれば収益も上げられる。

空間イメージ

- ・ 屋外と屋内が連続している空間であれば、雨が降ったときにはすぐに屋内に入れて安心感があるため、屋外イベントを行いやすい。
- ・ 大通公園にある白い大きな滑り台に多くの子供が集まっていた。大きいので順番を待たなくていいのが人気の秘訣と思われる。このように利用率の高い遊具を整備すべきである。

既存のイベント・活動

- ・ 冬に屋外で行われているイベントはあるか。
→若草中央公園で行われているとまこまいスケートまつりは、しばれ焼きなど多くの屋台が出店している屋外イベントである。

まとめ

- ・ 野外空間については、広い場所さえあれば、既に市内にイベントや活動は多いので、それらを取り込んでいくことは可能である。

■ 世代ごとのテーマを設けた空間について

子供のためのスペース

- ・ 千歳のレラには無料で子供を遊ばせることができる大きい空間があるが、苫小牧にはイオンにある有料の空間以外になく、市民ホールに整備してほしいという意見がある。
- ・ 小学生3~4年生を対象に、ある施設で職業体験イベントを行っており、毎年抽選になるほどの人気がある。
- ・ マクドナルドが実施しているマックアドベンチャーという職業体験イベントには、子供を連れてよく行っている。職業体験は子供にとって人気のあるイベントである。

社会人のためのスペース

- ・ 社会人が資格取得などに向け、無料でスキルアップを目指せる勉強会があるといい。

高齢者のためのスペース

- ・ 市内で行われている長生大学は、現在コミュニティセンターとアイビープラザで開催されており、高齢者を対象にサークル活動が行われたり、発表の場が設けられたりしている。新しいホールでは、そこに通う高齢者のハレの場として、発表や展示の場を提供することができるのではないか。
- ・ 長生大学に通う高齢者に、社会人勉強会の講師を務めてもらうことが出来るのではないか。

学生のためのスペース

- ・ 現在市内の吹奏楽部については、自分たちの学校だけでしか活動していないので、学校に関係なく様々な人と練習や交流ができるといい。所属している打楽器のサークルでも世代間の交流が行われ、中学生が上級生の姿を手本として励むなどいい影響を受けている例がある。
- ・ 小学生は学級レクで市内の施設に出向いて様々な講習を受ける機会がある。しかし、中学校はその機会がないので、休日に市民ホールに出向いて講習を受けられる機会があるとよいのではないか。

■ 次回のWG会議に向けて

- ・ 次回は、今回と同様に WG の意見をもとに事務局でまとめてアイデア集を提示する。その上で「創作環境」、「機能連携」、「管理運営組織」のキーワードをもとにした議論を行う予定である。

■ 今後のスケジュール

次 回（第 5 回）：11 月 14 日（月）13:30~@市役所 2 階 21 会議室

次々回（第 6 回）：12 月 19 日（月）13:30~@市役所 2 階 21 会議室